

No.	事業名(団体名)	目的	委員総合評価・コメント	評点 (3点満点)
1	シニア食堂/お一人さまシニアのためのいっしょに朝ごはん会 (NPO法人東葛地区 婚活支援ネットワーク)	【福祉の増進】 シニア同士及び多世代の支えあいにより一人暮らしやシングルのシニアのコミュニティ作りと食事・生活リズム改善に繋げ、地域の誰もが健康で安心し、生きがいを持って活躍できる成熟した地域づくりに貢献する。 (継続事業:3年度目)	<ul style="list-style-type: none"> この補助金は、市民活動団体が行う先進的で公益的な独自事業に対して支援する制度だが、まさに目的どおりの活用がなされた。 目新しい試みであることもあり、結果としてメディアにも多く取り上げられるなど時代のニーズにマッチしていたものと判断した。また、補助金制度を足がかりに市外まで事業を拡大し、団体として自立できたことは、この制度の目指すところであり、今後もモデル事業として取り上げられると思う。 当補助金を活用することで事業拡大が図られ、「シニア食堂」として自立できたことは良かったが、3年目の課題であった市内の新規団体への波及ができなかったことは残念。また、行政との協働については、今後も両者の立場を理解しあいながら進めていただきたい。 今年度をもって当事業への補助は終了となる。今後の発展については、シニアの孤独解消という視点から地域の自治会や高齢者支援団体等を巻き込むことによって更なる展開が可能になると思われる。事業を継続して高齢者の方々が少しでも生きがいをもって長生きできる社会の実現に向け頑張ってもらいたい。 この「シニア食堂」に参加し、心身ともに健全な高齢者が増えることは、介護予防にも大いに貢献できていると考える。これからはますます市外での事業展開になると思う、流山市内において、自治会単位でこの「シニア食堂」がたくさん誕生することを期待している。 	2.72
2	子育てを孤育てにしない事業 (赤ちゃんと一緒に 流山de美ヨガ&ダンス)	【福祉の増進】 1:乳幼児を子育て中の養育者の「地域に知り合いができず孤独」を解消することで、養育の質を上げ、母子どもの心身の健康を促進し、健全な社会づくりを目指す。 2:『母になるなら流山』のキャッチコピーに恥じないよう、市内の市民団体・NPO団体の乳幼児期の子育て支援情報を広く配信し、子育て世代に幅広い選択肢を提供し、行政のみではなかなか担えないソフト面を市民として支援する。 (継続事業:2年目)	<ul style="list-style-type: none"> 正に本市が掲げる“母になるなら流山”を民間レベルで実現しようとするチャレンジであり、同時に行政が抱える課題とマッチした事業であった。 会場も増やし、講座の内容も工夫されて、パパたちの参加者も増え、本年度はより充実した事業に成長したと思う。個々の講座についても何を伝えたいかというしっかりしたメッセージにより企画されていることが伝わってきた。子育てを孤育てにしないというのは大きなテーマであるが、このような活動が地域の皆さんの力で広がっていくことを大変強く感じる。 事業の遂行等はほぼ計画的に実行されていると評価できる。問題は、自立性と波及効果の点であり、その事業そのものが自己完結的に見て良い成果を挙げたとしてもそれが必ずしも、積極的に外部に影響を及ぼしているのかどうかの評価は難しい。 乳幼児の多い流山市で、今回の事業は子育て中の家庭にかなり影響力をもった事業になったのではないかと。昨年よりもさらに事業回数を増やし、地域の大学や行政との連携の元に素晴らしい成果を上げられたので、今後ともこの活動が展開されることを期待したい。そのためには、市内にまだ存在するこのような活動に参加できない、或いはこの活動を知らない対象にどうアプローチしていくかが今後の課題となろう。 	2.94
3	防災かるたを活用した親子のための 防災啓発事業 (流山子育てプロジェクト)	【災害救援(啓発)】 親子のための防災かるたを制作し、講演会 & 大かるた大会を行うことで、特に子育て世代に向けた防災意識の啓発を行う。家族、地域で楽しみながら防災知識を身に付け、防災かるたをきっかけとした食品等の備蓄や家具などの転倒防止の備えによる「自助」、地域の交流による「共助」の取り組みを推進させる。 (継続事業:2年目)	<ul style="list-style-type: none"> 今年度は、かるた制作に留まること無くかるたを使った防災の啓発活動も実施された。引き続きかるたの有効活用を図って欲しい。 何より親子でかるた作りを通して防災意識の啓発、教育という発想がユニークであり結果として予想以上の成果を上げられた。マスコミ等にも取り上げられことは時世の評価であったと思う。 当初目的の防災啓発の成果は「大会を実施」だけでなく参加者の「防災意識」の向上が重要な課題であったので、参加者にアンケートなどで意識向上度を聞いてもよかったのではないかと。 メディアを通し、「防災かるた」は市内外、そして県外へと広がり、大きな反響もあったが、出来ればもっと市内の多くの自治会で活用してもらうために、今後も繰り返しの市民向け広報活動にも力を入れていただきたい。 このテーマは元々「防災」に「男女共同参画」の視点が必要であるとの考えから、子どもたちにもそれを知ってもらいたいという願いで企画されたものであると理解しているが、高齢者、地域自治体などを含め多くの市民の関心と呼んだ功績は大きなものであった。さらに広く活用されることを期待する。 東日本大震災以降の様々な自然災害に見舞われた日本では教訓として、取り分け子供世代への防災教育の地盤作りが不可欠であり今後も本事業が根付いていくことを期待する。 	2.88
4	失語症の理解と支援のための 啓発事業 (流山失語症友の会)	【健康・医療・福祉】 失語症への理解と支援の輪を広げるために、リーフレットやパネルの作成と外部専門家による講演会を開催し、流山市全体への啓発を図ると同時に、すべての人が住みやすい流山市を目指したい。 (新規事業)	<ul style="list-style-type: none"> 当補助制度の活用により多くの市民の目に触れるようになったことは良かった。今後のますます活発な活動を期待したい。 折しも千葉県で「失語症向け意思疎通支援事業」が始まった。聾者は「手話通訳」、中途失聴者は「要約筆記」の支援があるが、これまで失語症の方に対しては何もなかったのが、一歩進んだことを大変嬉しく思う。自ら社会に働きかけ、仲間が増え、そして地域での理解が進むことを期待する。 補助金により、啓発リーフレット・パネル等が作成でき、フェスタ等に積極的に参加し、取り組めたことは大きな前進だったと思う。何よりこれらの活動を通して、当事者に自信や意欲の向上心が大きく膨らんだことが一番の成果ではないかと。 まだまだ知られていない疾病であり、今後の普及活動が大切である。会員が活発に活動出来ない事からボランティアなどの支援が不可欠であり、行政からも手厚い支援が望まれる。 活動のゴールは高いところにあると思われるが、意思疎通支援者要請講座修了者の誕生など明るい話題もあり、今後の活動拡大へと着実な進化を希望する。 新型コロナウイルスの関係で予定していた講演会が中止になったことは残念であった。一人でも多くの市民に失語症について正しい理解を広め、失語症の方と家族が安心して住み続けられるまちの実現に向け今後の事業展開に期待する。 	2.22